

付着生物ラーバ情報

マボヤの付着は終盤です

1 ラーバ等の出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ (通称ハナ)

ラーバは奥内沖で12月6日、15日ともに1.7個体/m³、久栗坂沖で12月6日に22.8個体/m³、12月16日に7.2個体/m³、12月12日の野辺地沖、12月6日の川内沖とともに0.8個体/m³見られました (表1、図2)。

(2) マボヤ

ラーバは12月6日に奥内沖で0.8個体/m³、久栗坂沖で12月6日に2.2個体/m³、12月16日に4.4個体/m³、12月12日に野辺地沖で2.3個体/m³、12月6日に川内沖で1.6個体/m³見られました (表1、図3)。

卵は奥内沖で12月6日に19.2個/m³、12月15日に0.8個/m³、久栗坂沖で12月6日に3.9個/m³、12月16日に3.3個/m³、12月12日に野辺地沖で1.6個/m³見られました (表1)。

(3) ムラサキイガイ

ラーバは奥内沖で12月6日に53.3個体/m³、12月15日に19.2個体/m³、久栗坂沖で12月6日に37.8個体/m³、12月16日に51.1個体/m³、野辺地沖で12月7日に49.2個体/m³、12月12日に263.3個体/m³、12月6日に川内沖で28.1個体/m³見られました (表1、図4)。

(4) ミネフジツボ

ラーバは12月6日に奥内沖で0.8個体/m³見られました (表1)。

(5) その他

アミクサの小枝は奥内沖で12月6日に1.7個/m³、野辺地沖で12月7日に18.8個/m³、12月12日に74.2個/m³、キヌマトイガイのラーバは12月12日に野辺地沖で3.3個体/m³見られましたが、オベリア類のクラゲは見られていません (表1)。

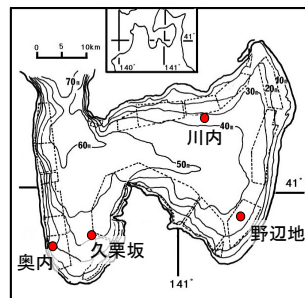


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザボヤ	マボヤ		キヌマトイガイ	ムラサキイガイ	ミネフジツボ	オベリア類		アミクサ小枝
				ラーバ	卵				クラゲ	小枝	
奥内沖	R3.12.6	1.7	0.0	0.8	19.2	0.0	53.3	0.8	0.0	1.7	
	R3.12.15	1.7	0.0	0.0	0.8	0.0	19.2	0.0	0.0	0.0	
久栗坂沖※	R3.12.6	22.8	4.4	2.2	3.9	0.0	37.8	0.0	0.0	0.0	
	R3.12.16	7.2	0.0	4.4	3.3	0.0	51.1	0.0	0.0	0.0	
野辺地沖	R3.12.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	49.2	0.0	0.0	18.8	
	R3.12.12	0.8	0.0	2.3	1.6	3.3	263.3	0.0	0.0	74.2	
川内沖※	R3.12.6	0.8	0.0	1.6	0.0	0.0	28.1	0.0	0.0	0.0	

※の久栗坂・川内沖は実験漁場内

2 今後の見込み

現在、陸奥湾内の中層水温は10~13℃台で、ユウレイボヤが産卵する20℃以下の水温になっています。

久栗坂沖の累積ラーバ数が39.5個体/m³とかなり多くなっており、分散済みのパールネットにユウレイボヤの付着が見られています。来春出荷時に大量付着している可能性があります。

マボヤの卵は減少し、ラーバがわずかに見られるだけなので、付着は終盤と思われます。

ムラサキイガイのラーバが見られていますが、これまでの調査で秋から冬生れのラーバの付着はほとんどないことが分かっています。

ミネフジツボのラーバが見られていますが、例年の出現のピークは1月下旬から2月です。

アミクサ小枝の本格的な出現は12月以降、オベリア類とキヌマトイガイの付着は年明けになるものと思われます。

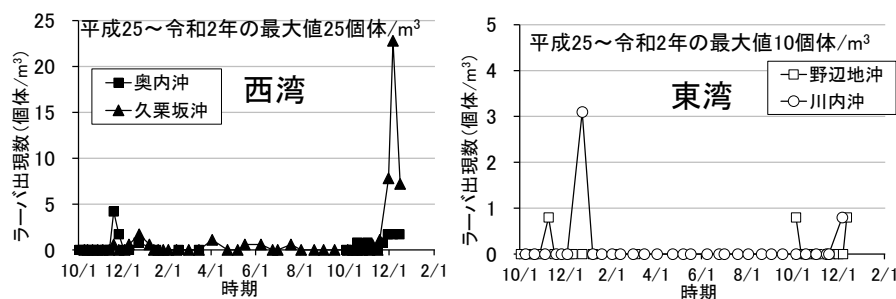


図2 ヲレイボヤ・マボヤ出現数の推移 (令和2年10月~令和3年12月)

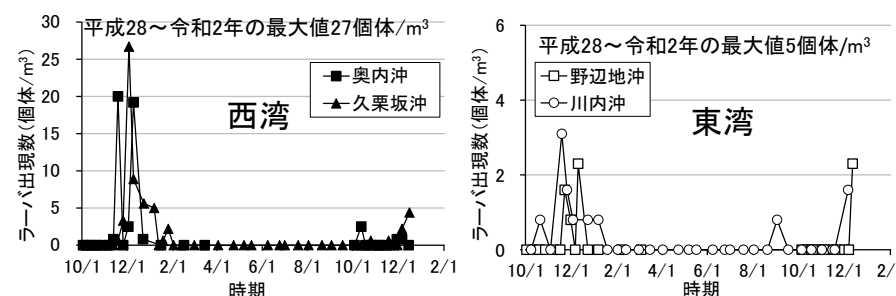


図3 マボヤ・ミネフジツボ出現数の推移 (令和2年10月~令和3年12月)

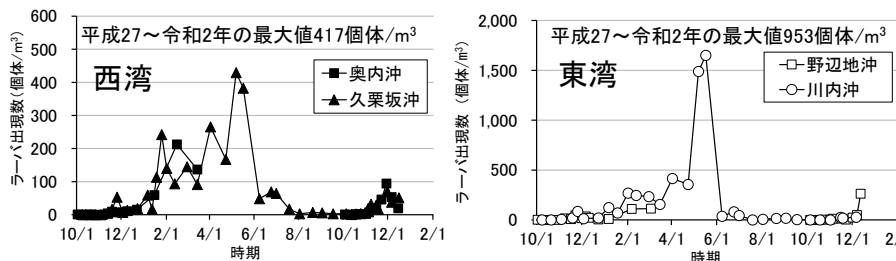


図4 ヲラサキイガイ ラーバ出現数の推移 (令和2年10月~令和3年12月)

